

すみだタウンミーティング 議事録

テーマ	過去・現在から、未来を紡ぐ 共につくる～持続可能な“すみだ”～
日時	令和4年8月3日（水）午後6時30分～8時30分
会場	i U 情報経営イノベーション専門職大学／オンライン（Zoom）
参加者	54名（会場：34名、オンライン：20名）

＜はじめに＞

司会 すみだタウンミーティング「過去・現在から、未来を紡ぐ 共につくる～持続可能な“すみだ”～」を開会する。このタウンミーティングは、通常、有志の区民で編成する企画運営委員会で企画・検討を重ね開催しているが、今回は、企画運営委員を私たち6名のi Uの学生で務めさせていただいている。

タウンミーティングは、区民の皆さんと区長の直接対話を通して、皆さんの意見や想いを区政運営の一助とすることを目的として実施している。今年度のタウンミーティングは、今回を含め全3回の開催を予定している。全3回の共通のテーマとして、墨田区が昨年度「SDGs未来都市」に選定されたことから、SDGsで掲げる持続可能な社会の実現に向け、「共につくる～持続可能なすみだ～」という副題を掲げ、すみだの未来について、皆さまと区長とともに考えていく。

＜テーマ設定についての説明＞

司会 本日のメインテーマ「過去・現在から、未来を紡ぐ」このテーマに決めた私たち企画運営委員の想いを説明させていただく。

企画運営委員 私たち6名の企画運営委員は、6月より、本日のタウンミーティング開催に向けて準備を進めてきた。タウンミーティングで重要となるテーマ設定では、過去や現在を踏まえて、未来へつなげるためにはどうしたらいいか考えようという趣旨で意見を出し合い、最終的に「過去・現在から、未来を紡ぐ」に決定した。このテーマには、i Uが令和2年4月に開学し、新しく墨田区で生活を送るようになった私たちのような学生と、墨田区で長く暮らす方々との世代を超えた交流の場にしたいという想いも込められている。暮らし慣れた「すみだ」の昔から続く良いところ、参加された皆さんのふるさとの良いところ、残していきたいものなどについて、意見を出し合い、現在のすみだの課題を共に考え、それを糸口に、明るいすみだの未来につなげていきたいという発想から、このテーマが誕生した。「紡ぐ」という言葉には、綿（めん）や繭（まゆ）から繊維を引き出し、糸にするという意味がある。本日のタウンミーティングでは、参加者皆さんのそれぞれの想いが1本、1本の糸となり、その糸が、すみだの明るい未来につながるような有意義な場にしていければと考えている。

<区長挨拶>

区長 皆さんこんばんは。タウンミーティングにご参加いただきありがとうございます。

今、実行委員会のみなさんからとてもいい挨拶と今日の趣旨をご案内いただいた。学生の皆さんに仕切ってもらうことは素晴らしいと思う。

私が区長になってからずっと、区民の皆さんとの対話を大事にしてきたが、タウンミーティングも早7年やらせていただいた。区長になった時、iU（情報経営イノベーション専門大学）はまだできていなかったが、開学して3年目、こうした中でタウンミーティングができることは、私共にとって大変嬉しいことである。令和2年4月に開学したiUは、本区にとって初めての大学。ビジネス、ICT、グローバルコミュニケーションの3つを柱として多くの実務家教員による教育カリキュラム、600時間を超えるインターン実習が特徴の新しいまなびのプラットフォーム、これを墨田区で展開していただいている。

今、企画運営の学生さんからも挨拶があったが、我々と学生との連携はいろいろなところでやっている。今回はタウンミーティングの企画に加わっていただき、チラシデザインからテーマ設定、そして本日の進行まで、企画運営委員の皆さん本当にありがとうございます。実は当大学の入学式でも挨拶をさせていただいたが、墨田を学ぶフィールドとして、様々な機会を通じて地域課題の解決や活性化に寄与していただくことを学生さんに大いに期待しているとお話した。そういった中で、タウンミーティングも知っていただくことができ、またそれが実践された形になっているので、嬉しく思っている。

それから、お隣の千葉大もある。こういう皆さんと忌憚のない意見交換をさせていただき、今日ご参加の、長く墨田区で活躍されておられる方と学生さんとがいろいろな意見交換をすることによって、更に面白い展開や、我々が気づかないことに気づかせていただけたら、そんな期待を込めて今日はやらせていただければと思う。

そして過去、現在からすみだの明るい未来を考えていく、先ほどの学生さんたちの想い、このテーマに従って進めていくが、もう一つは墨田区を魅力的なまちにしようということでタウンミーティングでもご意見を伺っている。更に次の世代の人たちに、墨田区の良さ、魅力を、今に生きる大人たちが磨き上げ、頑張っている子どもたちに引き継いでいくことが大きなテーマだと思っている。持続可能なより良い未来に向けて、みなさんの忌憚のないご意見、ご提案をお寄せいただければと思う。限られた時間ではあるが、よろしく願い申し上げます。

そして、開催にあたり、会場を提供いただき、全面的に御協力いただいた中村学長、iUの皆様方、タウンミーティング企画運営委員のみなさんにあらためて感謝して、冒頭の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【グループワーク①】

<残したいすみだの良さ、取り入れたい私のふるさと>

司会 過去・現在・未来の3つのテーマについて、グループワーク形式でタウンミーティングを進めていく。山本区長もテーマ毎に6つのグループの何れかに入ってグループワークを行う。

テーマは、「残したいすみだの良さ、取り入れたい私のふるさと。」昔から墨田区にお住まい

の方は、昔から変わらない良いところや、これから先も残していきたいすみだの良さについて。最近墨田区で生活を始めたばかりの方は、ご自身の地元にあった素敵などころ、こんなものがすみだにあったらいいのにな、というものをそれぞれ意見としてお出しいただきたい。

～グループワーク①～

グループA 大きく分けて3つある。一つ目は、すみだは人情味にあふれていて優しい人が多いこと。二つ目は、スカイツリーなどの観光地もありながら、住宅地もあり、住むのにとってもいい環境であること。三つ目は、マンションなども多い中、錦糸公園など緑の多い公園が多数あること。以上。

グループB 内容としては、①人、②文化的な面、③近代的な面の3つ。①は、人情味にあふれていて、若い人でも高齢の人でもコミュニケーションがとりやすく、住みやすいことが魅力的。②は、オーケストラの区民割引があり、文化的なものをまなぶ機会を得やすいこと。今はコロナでできていないが、祭りや花火などの行事をコロナ禍でもいかに行っていかかが鍵になってくると思う。③は、ループ等の電動自転車があることや、墨田区の公式SNSなどが先進的で、どんどん新しいことを取り入れていること。これからは若い人が集まりそうな可能性を感じている。

グループC 残したいものと取り入れたいものとそれぞれ出た。残したいものは、人のあたたかみがあること。私はi U生だが、近くの商店街の方には本当に良くしてもらっている。学園祭に協力していただいたり、お昼休みに買い物に行った時にはサービスしてもらったり、本当に優しく接してもらっているなど感じている。また、街並みとして、向島、京島エリアの長屋、古い建物が結構残されていると思うが、これも都内においては非常に珍しいと思っている。災害に備える必要性もあるし、立地もいいので開発も進んでしまいがちだが、できる限り残せるといい。さらに、北斎も芸術性として残したいところ。

取り入れたいものは農業。農業がないので、何か取り入れられたら面白そうだと思う。また、錦糸町に通われている方から、錦糸町は人が多く、朝などは子どもの通学路として危ないと感じているというご意見もあった。

区長 ABC、各グループ共通してお話いただいたのは人の良さ。若者であっても声をかけてくれるまちの人達がいる。私もグループワークに参加して発言したのはそういうところである。あたたかい気持ち、助け合ったり、支え合ったりして、この世の中、社会は動いていく、そういったものをこれからの世代に残していけたら。新しく墨田区に住んでいただく方に対しても、そういう気持ちでお迎えをし、お気持ちを汲んで生活していただきたいというのは、区の目標でもあると思う。その点をご指摘いただけた。

次に、スカイツリーに伴う近代化。スカイツリーもありながら、住みやすくて交通のアクセスも良いという利点を生かしたい。人口も伸びており、27万8千人に到達したが、これらの

利点をしっかりPRしていく。また、公園については魅力的な公園をつくっていく。錦糸公園や隅田公園、他にもいろいろな公園があるが、こういうところで若いお父さんお母さんが子どもと遊んでいる姿や、笑顔でまちにいる方を増やしていきたい。まさに区政の目標でもある。それを残していくという意味では、大変いいご指摘をいただいた。

それから文化的な面では、トリフォニーホールがあって、新日本フィルをはじめとする音楽コンサートが区民割で聴けるのはとてもいいことではないかと思う。また、向島、京島エリアは人と人との繋がりのお話になると思うが、長屋づくりの文化や、人のあたたかさを象徴する街並みのひとつである。建物は耐震化や不燃化という課題にも対応していかないといけないが、人の心と心の繋がりや近代化になっていっても残していかないといけない。それから北斎についても、SNSがしっかり発信されているという学生さんからのご指摘もいただけたので、音楽文化や歴史、そして北斎もしっかりPRしていくことが、まちの魅力や墨田区のいいところにつながっていくのかなと思う。

農業については、確か前回のタウンミーティング等でも話があったと思うが、今、鐘ヶ淵の多聞寺というお寺の一角に「たもんじ交流農園」があり、古くからある寺島なすを栽培して広めていこうという人たちがたくさんいる。そのように、農業や栽培ができる、土に触れることができる場所を増やしていったらどうかというお話をいただいた。今日もこういう話が出たことを頭に入れておきたい。農地、農業というところをいろいろあるが、このテーマは頭に入れておかないといけない。そして、交通も含めた安全、安心、災害対策も含めて、しっかり対応していく。

【グループワーク②】

＜今のすみだに足りないものは？＞

司会 グループワーク②に入らせていただく。テーマは「今のすみだに足りないものは？」とする。すみだの良さを確認できたところで、次は「今のすみだにはここが足りない」、「すみだはこんなところが惜しい」というところについて、意見を出し合っていたきたい。

～グループワーク②～

グループD まず、農地や自然の問題が多く出た。自然の中で散歩やランニングができるスポットがあるといい。さっき区長も言っていたが、それだけでは農地が足りないので、農地も増えるといい。農地を増やすことで地球環境への貢献も可能になると考えられる。

次に、墨田区内にはお年寄りの数が多い。ベンチの数が少ないので増やせたらいい。

最後に、スカイツリーに観光に来た時、1日中スカイツリーにいるわけではない。その後遊ぶスポットが少し足りない。近くにソラマチがあるが、下町をテーマにしているので、少し若者向けしない気がする。カフェなどのおしゃれなスポットを増やしていけたらいい。

グループE グループEの意見は4つ。一番多かったのは、閉鎖的で入りにくいこと。すみだは町内活動が活発な反面、自治会と新しく来た人とが別々になってしまっている。新しく来た人

の意見を取り入れる機会がない。町内活動はすみだが大好きな人だけが参加しているという意見も出た。他の視点からの意見が出なくて、なかなか改善されないという意見もあった。

二点目に、歩道が狭いこと。急に自転車が出てくるなどの危険もある。歩道を広げたり、広場を作るなどしてほしい。

三点目に、路地裏の緑の少なさ。散歩の時などに、路地裏で休めるような憩いの場をつくりたい。

最後に、災害意識が低いこと。備えない防災の意識の強化が必要ではないか。以上の意見が出た。

グループF 4つの意見が出た。一つ目は、墨田区はスカイツリーという大きな商業施設があるが、他にもいいところがいっぱいあるのに、墨田区に行ったり住んでみないと体感できないこと。スカイツリー以外の魅力をもっと発信するべきではないか。

二つ目は、墨田区の地域内で差があること。交通面では、総武線沿いの横のラインは強いが、縦のラインが弱い。また、施設については、北部は充実しているが、南部は少ない。

三つ目は、イノベーションが墨田区には足りないこと。区内には中小企業が多かったが、年々減少している。また、コロナ禍で墨田区は医療が強いということがわかったが、あまりアピールできていない。

四つ目は、墨田区は平らな地形だが、そういう地形の良さをアピールできていないこと。墨田区の中に電動車いすの企業もいろいろあるので、平らな地形を生かしやすいと思う。

全体を通して、魅力があるのに、あまり発信できていないところが課題という意見だった。

区長 率直にお話しただいてありがたいと思ったのは、閉鎖的で入りにくい、というお話。実はこの中に町会の会長さんも何人かいらっしゃる。私はいつも言っているが、昔ながらの町会活動、これはこれで、区政が動いていく上での原動力である。ただ、まさにこのタウンミーティングの中で、これだけスピード感の速い議論があって、目の付け所が違うお話が出ている。こういうご意見を踏まえながら、町会自治会、団体等も、時代にあった形にしたり、新しい人を入れて活動を活性化させていく、または改善・変革していく必要があるというご指摘であったと思う。それぞれ町会の歴史や成り立ち、特徴的な運営もあると思うが、こういう意見もいただけたということで参考にしたい。

防災の面も気をつけないといけないというお話をいただいた。それから情報発信については、インスタグラムやツイッター、フェイスブック、ホームページは、以前と比べだいぶ変えながらやっているが、よくホームページで発信していると言うと、若い人はホームページなんて見ないと言われてたりもする。一方、例えばコロナで、医療にかかりたい、検査をしたいといった若い人も含めた全世代共通の要望がある時に、実は若い人がホームページから入って、オンライン診療を受けて、薬が翌日届いたというお話も聞いている。いろんなツールを行政として用意・発信して、結果に結びつけることは大事だが、さらに魅力も発信していないといけない。努力はしているが、さらにいい発信をしていくべきだと思った。

また、歩道を広くとか、路地裏の活用、平坦な地形を生かすというのは、今まで私はイメージとして持っていなかった。それから、私がグループワークに参加したグループでは、墨田区を綺麗に見せたらいいのではないかというご意見もあった。綺麗ないまちだから、見せ方が大事である、と。路上等でたばこを吸っている人が少なくなるというお話もあったが、同じようなご意見なんだなと感じたところである。

まだまだ足りないものがいっぱいあるなど率直に受け止めつつ、こういうご意見を一つずつ解決していく、または参考にしながら我々が変わっていく必要があると感じた。

【グループワーク③】

＜提案！「〇〇なまち、すみだ」＞

司会 最後のグループワークに入らせていただく。テーマは「提案！『〇〇なまち、すみだ』」とする。これまでのグループワークでの議論を踏まえ、未来のすみだはこんなまちにしたい、そのために自分がしたいこと、やろうと思っていること、区政に求めることを話し合ってもらいたい。各グループで意見をまとめ、「〇〇なまちすみだ」の〇〇を決定し、そのためにどうするか、何が必要なのかを山本区長にご提案いただきたい。

～グループワーク③～

グループA 3つ提案をする。一つ目は、「人に優しいまち、すみだ。」車椅子の人は段差で苦労していることがある。スカイツリーの観光などに来るお客さんにも車椅子の方がいると思うので、改善していく必要がある。

二つ目は、「高い技術力のまち、すみだ。」墨田区には宇宙に関する事業をやっている企業があるが、そこがあまり知られていない。情報発信を行ったり、学校の教育等でも教えていくことが大事である。

三つ目は、「情報が共有できるまち、すみだ。」情報共有の点では、情報を受け取る側がホームページなどを見ていなかったりすると知らないことがあるので、発信する側だけでなく、受け取る側も確認する姿勢が大事である。

グループB 二点提案する。一点目は、「歴史的なまち、すみだ。」墨田区は歴史的なものがたくさんあるまちだが、その発信が足りていない。スカイツリーのような近代的なものもあるので、歴史と近代のコントラストをどうPRしていくかが大事である。

二点目は、「ダイバーシティなまち、すみだ。」多様性を認めていくということだが、高齢者が増えている一方で、若者を取り入れようとする政策を行っている。その中で、高齢者のためだけの政策、または若者のためだけの政策では住みづらくなる。双方の意見を取り入れることが大事で、そのためには、意見が通りやすくなるのがとても重要になる。このタウンミーティングをこのまま終わらせるのはもったいないこともあるので、解決案の一つとして、若者の意見を吸い上げる仕組みを設けてはどうか。若者が区議会や区の会議にも参加できるようにし、若者の意見を直接出してもらおう。その意見が反映されれば、自分の意見が

政治にも反映されるという体験をすることができる。この仕組みは、墨田区は若者の意見を吸い上げることができ、若者は政治を体験できるというところで、双方にメリットがあると思う。東京都の調査によると、若者の投票率が低いことには、政治を身近に実感できないことが関係している。国政選挙も投票率が上がる可能性があるので、墨田区には若者の政治教育推進の最先端を行ってほしいと思う。

区長 大変うまくまとめていただいた。最初に出たのは大事なところで、「人に優しいまち。」障がいのある方にも墨田区に来ていただきたい、住んでいただきたいというからには、いろいろ面で対応ができていくまちでなければいけない。どうしても健常的な視点で物事を考えがちなので、意見が通りやすくなることが重要だというお話もあったが、何に困っているのか、そういうお声を聴いて改善することが大事だと思った。

「高い技術力のまち」は、自他ともに認めるところであり、伝統工芸や工業の部品を含めた様々な技術力の高い事業者がたくさんいるまちだと思っているが、「スカイツリーのあるまち」と「技術力のあるまち」どちらが響いていますか、というお尋ねにも近いのかなと思う。高い技術力に関して、宇宙の話もあったが、墨田区内にはスタートアップの企業で株式会社アストロスケールさんという会社がある。全世界で課題になっているスペースデブリという宇宙ゴミの除去、宇宙ステーションや衛星がどんな状況か知らせること、さらには給油などのミッションを持った会社だが、これから大きく羽ばたいていくと思う。「高い技術力のまち、すみだ」というのは従来からある精密な加工技術も含めて、「スカイツリーのあるまち」に近い形で表現・発信していく必要がある。

続いて、「情報が共有できるまち、すみだ」も大変大事であり、これまでのタウンミーティングでもあったが、発信する側、受け取る側がつながって、必要な情報が必要な人に届いていないといけない、一方通行であってはならないということ。このことは常に課題だなと思っていて、少しでも良くしていこうと努力はしている。コロナ禍での対応等、スピード感を要するもの、反対にじわじわと発信するもの、継続していくものなど、情報が共有できるまちを目指して発信を続けていくべきだなと、改めてご意見いただけて有難く思う。

Bグループでは、歴史的ないいものと近代的なコントラストの話があった。Aグループと一部被っているところがあるが、コントラストを含めた発信というのは、先ほどの宇宙技術で紹介したアストロスケールさんであったり、スタートアップが活躍できるまちであったり、学生がインターンで学んで起業するというiUの理念が具現化できるまちであったり、歴史的なものや近代的なもの、チャレンジができるまちということも合わせて、コントラストとして発信していきたい。

「ダイバーシティなまち、すみだ」については、東京都としてもダイバーシティを目指しており、23区としても同じところを目指している。一番大事なことは意見が通りやすいこと、そこが肝だとおっしゃっていただいた。意見が通りやすいこと、そしてその環境をつくるのが大事だと感じている。また、若者の政治参加、区政を身近に感じるということも非常に大事なことである。昨年12月の中学生区議会で、中学生3年生から僕たちにも何かできることはないかと代表質問をいただいた。例えば、学童クラブに通っている子どもたちの宿

題を身近なお兄さんお姉さんである自分たちが教えるのはどうだろうか」と提案があった。現在、両国中学校で実際に取り組みをしていて、中学生15名が学童クラブに通う子どもたちに、宿題の仕方や勉強のやり方を教えている。こんな取り組みが中学生の発案で実現した。これと同じように、高校生でも大学生でも、本日のタウンミーティングの中からも、ここから挙がってきた意見を、意見が通りやすい環境の中で実現していくということは、我々のテーマでもある。継続的にご意見をいただきたい。

最後に、タウンミーティングをもっと活かせと、ここで終わらせるのはもったいないというのも貴重なご意見である。こういう意見が出た中で、学生さんと一般のみなさんとの意見交換の場を引き続き作っていききたい。また、若者に身近に感じてもらうための努力も継続していきたいと思う。

グループC グループCは2つある。一つ目は、「粋でいなせなまち、すみだ。」簡単に言うと、かっこいいまち、すみだ。大人がもっとかっこいい感じになって、その様子を見て子どもが育つ。墨田区が持っている資産がかっこよくなったり、人懐っこさを感じられるようになることが、すみだにとっていいことなのではないかと思う。

二つ目は、「子どもが最高に幸せに育つまち、すみだ。」墨田区には公園が多いが、隅田公園等を含めた、子どもたちが快適かつ安心安全に過ごせるような環境づくり、そこに高齢者の方も混じってコミュニケーションが生まれる、そこで新しい活気が生まれる、そういう環境をつくっていったらいいのではないか。

グループD グループDは三点ある。一点目は、「安心安全なまち、すみだ。」墨田区には道が狭いところがあったり、整備されていないところもある。さらには自転車専用レーンが狭い。他の区では、歩道の中にレーンがあるところがあったが、そういうものがあるといい。車道の中に自転車レーンがあると、車が停まっていると危ないので、改善していくべきではないか。

二点目は、「データに基づいた自然共生のまち、すみだ。」自然や緑を大事にしていくのは重要な問題であり、データに基づいて緑被率などを上げていくといいのではないか。

三点目は、「歴史や文化をアピールするまち、すみだ。」他区の方からも、墨田区は歴史や文化が素晴らしいと言ってくることがあると思うが、PRが足りていない。SNSでしっかり発信してくというのもそうだが、墨田区からの発信だけでなく、来てもらった人にも発信してもらえるように、体験型アートなどを作っていくのはどうか。

区長 まずCグループの、粋でいなせなまち、かっこいいまち。大人が見本になって子どもたちにつながるような、そういう想いについてお話があった。おっしゃるところ、下町の人情とか、やせ我慢とか、傘をさしてる同士が細い路地をすれ違う時にお互いに傘をよける、そういう下町のしぐさ・所作は大人が示していくべきだと思う。挨拶ができるまちというのは、元気の源というか、挨拶が自然にできる、大人が子どもに対して頑張ったなどと言える、そんなまちでもあるのかなと。そういう大人のかっこいい背中を見せて、その中で子どもが

安心安全に育つことは、まちの理想だなと思う。

それから、子どもに関してお話があったが、私も区長になって目指すところの中で、このテーマは自分にとって優先課題の一つでもある。教育もそうだが、教育の中でも、学力向上がテーマとしてある時に、大学があるまちという話が出てくる。そして、身近に大学生が勉強している姿があり、こんなに立派にこのタウンミーティングを仕切ってもらえるような、若いお兄さんお姉さんがいることも、粹でいなせなまちにつながっていると思う。子どもたちが目標とする、そういう人たちがたくさんいるまちという意味の提案だったと思う。特に子どもたちに、まちの魅力をしっかりブラッシュアップしてつなげていく、こういうところに続く二つのご提案だった。

次に、自転車レーンも含めた「安心・安全なまち」について、他区などで道路事情のいいところを見ると、自分でもこういうやり方があるんだなと気づく場面がある。だんだん車社会から自転車に移り、自転車が安心して乗れるということもまちのテーマになっているなど感じる。当然そうなれば、道路整備も必要になってくる。国道、都道、区道とあるが、それぞれの管理の中で、区は区道をしっかり整備する、都道であれば都に働きかける、そういうことが必要になってくると思う。

それから、「データに基づいた自然との共生がなされているまち。」緑が人にどんな風がいい影響を与えているか、そういうところも踏まえてまちづくりをしていったらどうかというご提案でもあった。自然の環境は、例えば旧安田庭園や向島百花園など江戸時代からのいい庭園、それから、多少近代的になって人気のある錦糸公園も一つの自然の象徴であると。墨田区の弱点は緑化率が低いこと。13.77平方キロメートルの地形をみていくと、緑または大きな公園が少ないことがあるが、緑については区の課題として、議会でも議論しているところである。自然環境、自然との共生、公園整備など、データに基づいた形での整備をしっかりとやっていくとのご指摘だった。

もう一つは歴史や文化など、せっかくいいものがあるのにアピールし切れていない、みなさんに届いてないというご指摘。コロナ禍によってインバウンドのお客様も含めて、観光はほぼゼロベースに戻ってしまった。ここから観光再生をしていくというところである。これからコロナが落ち着いた時に、世界各国のみなさんがどこに行きたいかというランキングの1位は日本である。その中でも、東京、23区の中で墨田区のエリアが世界のみなさんからどう映っているかを意識して、しっかりアピールしていく必要がある。インバウンドが復活した時に、いの一番に日本、日本の中でも東京、東京の中でも墨田区・台東区エリアが選ばれるように、そういうアピールをしっかりとしなさいよと、そういうご指摘だと解釈した。効果的に、今後の課題としてやっていくべきだと思っている。

グループE グループEでは5つ出た。一つ目は、「公平なまち、すみだ。」墨田区を住み続けたいまちにするには、さまざまな視点からの意見が必要になるという意見である。新しくすみだに来た方や、昔からいる方、若い方、高齢者、いろいろな立場の方の意見を公平に受け入れるまちにしたいという意見が出た。

二つ目は、「子どもが健康に育つまち、すみだ。」子どもたちにとってよいサポートが提

供できる墨田区にしたい。具体的な案として、有機農業の給食を提供するのはどうか。墨田区自体の売りになると思う。

三点目は、「孤立しないまち、すみだ。」困っている人が孤立しないようにするまちにしたい。農園を活用して相談できる機会を増やしたらどうかという意見が出た。

四点目は、「コミュニケーションが豊富で挨拶があるまち、すみだ。」ネット社会の今、ありそうでないコミュニケーションを大事にしたい、そのためには親近感があればコミュニケーションが増えるという意見が出た。挨拶に関しては、すれ違った時や顔を合わせた時の元気で明るい挨拶があるまちにしたい。

最後は、「スカイツリーだけじゃないまち、すみだ。」墨田区といえばスカイツリーという意識があると思うが、緑や広場などを増やして、墨田区自体を素敵なおまちにしていきたい。すみだに住みたいけど家賃が高くて住めないというような人の問題を解決するために、新しい活動を行ってみるなど、すみだに住んでもらう人を増やすなら、そこへのアプローチをすることがいいのではないか。また、新しい活動を行うことで、様々な視点の意見を取り入れることもできるのではないか。

グループF 「モチベーション、イノベーション、クリエイションでつながる、つなげるまち、すみだ」を提案する。昔は墨田区から新しいものが生まれていくということが結構あったが、今はそれが少なくなっていて、中小企業が減ってしまっている現状がある。iUができたので、イノベーションのまちにしていけたらいい。先ほど閉鎖的なまちという意見が出ていたが、隣の町会であっても、町会同士のつながりがほとんどないという問題があったりする。町会をIT化するのはどうか。例えばSNSでネット上の町内会をつくるなど。区内が閉鎖的というところがあったり、逆に区外に対してもあまりPRできていないところがあるので、すみだのいいところをどんどん区外にPRすべきだと思う。例えば区長や区にゆかりのあるタレントを起用するなどしたらどうか。

区長 こんな思いから、こういうまちが必要なんだという説明まで、うまくまとめていただいて素晴らしいなと思った。

「公平なまち」というのは他のグループでも出ていたが、町会の閉鎖的な部分もあること、多様性のこと、障がい者にやさしいまちであること、若者の意見を取り込むことなどを踏まえ、接点づくり、意見が出せる環境をちゃんと整えていることが大事で、それが公平なまちの意味だとしっかり受け止めたいと思った。

「孤立しないまち」も出ていた。孤立しないというのは、一人で悩まないということであったり、声を上げたいけど声が届かないとか、一人で家に閉じこもってしまったり、例えば老人会というのがあるのに、一人暮らしの方がそこに手が届かない、そういう意味なのかなと思うが、それも大事なテーマだと思う。

それから、挨拶ができる、コミュニケーションがしっかりできる、日常生活の中でということだと思うが、義理人情のまちであったり、助け合い支え合いのまち、先ほどお話が出たが、そこに加えて挨拶・コミュニケーションが自然にとれるというのは究極の目標とす

るところだと思う。ただ、小学校の子どもに、急に大きな声で声をかけてしまうと、子どもがびっくりして、自宅に帰って、おじさんから声をかけられたと話すと、それが人伝えに危ないから応えちゃだめよと言われる世の中でもあるので、自然にできるというまちというのは難しいところではあるが、目指すべきところだと思う。

「スカイツリーだけじゃないまち」ということをうまく活かして、いい方へ結びつけてほしいというのは、いいところをついているなど思った。その中に、家賃が高い、住みたいけど住めない人へのアプローチをしたらどうかということ、解決策として提案いただいた。ありがたい提案でもあったと認識した。

Fグループからの提案は、モチベーション、イノベーション、クリエイション、この3つの言葉で、墨田区に足りなくなってきたところをうまく現代的にアレンジしてみたらどうか、という高度なご意見であると受け止めた。その中に、ネット上町会という提案があったが、面白いなどと思った。従来の町会に、プラスαとして起こることなのか、または、入りにくい人たちが住んでいても、その人達が自由に意見交換をしながら、その町会に対して、サイレントマジョリティがこういうことを考えているんですよとつながる仕組みになるのか、チャレンジしていくことなのかなと、すごく斬新な発想だと受け止めさせていただいた。そういう時代なんだなということを考えさせられた。

区外にアピールしようというのは原点、ある意味オーソドックスな話だと思うが、隣の区であったり、区の皆さんに良いところをPRしていく、このことはとても大事だと思う。墨田区がやっていることが全て正しいということではないが、他区のいい事例であったり、マネしたいと思ったこと、何かのきっかけでそれに気づいた時に、墨田区役所として、区のいいところ、区の取組み、魅力、しっかりと情報発信、区外にPRすることが、最終的にはインバウンドの観光客の集客にもつながるといいと思う。モチベーション、イノベーション、クリエイション、ぜひ頭に入れて帰りたい。

A～Fグループのみなさん、ありがとうございました。

区長総括 本当にありがとうございました。毎回、感謝の気持ちでいる。また、みなさんに伝わったかなとか、いろいろなことを思う。テーマの部分であったり、参加者の方々との意見交換だったり、反省点も含めながら、ありがたかったと思う。今日は大学生に入っていたいて新たな一面が見えた。大事にしたいと率直に思う。

もう一つは、今回のタウンミーティングのように時間を区切ってやるというのは苦手だったので、ちゃんとできるのかと最初は思ったが、一般の参加者もついて来てくださり、また調整していただいた大人の先輩方がたくさんいた。やればこういう風にできるんだと感じた。

また、まとめる力の大切さも改めて気づいた。大きなテーマだったので、難しいかな、内容が散らばっちゃうかなと思ったが、発表者のスキルも含めて見事に話し合った内容を言い表していただいたので、いいタウンミーティングができたと思っている。改善点もあるかと思うが、そういう点もいただきながら、意見が通りやすい、若者そして各世代が融合した形、意見が通る墨田区といういい機会になったのかなとも思う。またやったらどうかという

話もあったので、次の段階に進めていきたい。

何より、i Uの学生さん、特に企画運営委員のみなさん、大学関係者のみなさん、遅い時間まで参加していただいた全ての参加者のみなさんに感謝を申し上げ、閉会のご挨拶とさせていただきます。大変楽しかった。ありがとうございました。

以上